

追 悼 名 譽 会 員 村 上 武 次 郎 君

本会名誉会員 村上武次郎君は、昭和44年7月29日午前3時28分、急性肺炎のため仙台市・仙台厚生病院にて逝去せられました。ここに同君の冥福を祈り、つつしんで哀悼の意を表します。



経 歴

明治15年11月10日京都府亀岡市保津町に生れた。

明治40年東京高等師範学校本科数物化学部、大正3年京都帝国大学理科大学純正化学科を卒業と同時に同科講師。大正5年本多光太郎博士の懇望により東北帝国大学臨時理化学研究所の開設に参画、今日の世界的に有名な金属材料研究所の基礎を築いた。大正8年東北帝国大学理科大学講師、大正11年同教授となり鉄鋼の物理冶金学、特殊鋼の金相学などの分野を担当して、特殊鋼の父と称せられ多くの研究成果を挙げた。ことに村上試薬は特殊鋼研究に不可欠のもので世界中で使用されている。当時の鉄鋼特殊鋼方面において世界の指導的立場を持した。更に偉大なる功績として溶接学の創始が挙げられる。昨年病床で入院する迄、毎日内外専門書に没頭して、80有余にして実用材料面の学者として第一線を持したことは特筆に値する。

在職中は東北帝国大学工学部長を経て昭和11年より退官される迄の8年間、金属材料研究所所長の任に就き、また東北帝国大学工学部金属工学科の創設、名古屋帝国大学理工学部および東京工業大学金属工学科の開設など教育および教育行政上の業績も真に大きい。さらに産業界への業績として多くの会社の創設と育成に尽力した。

昭和19年退官後東北帝国大学名誉教授の称号を受けると共に日本学士院会員、日本金属学会会長、学術研究会議会員などとして後進の指導に努力した。

これらの業績に対して文化勲章、勲一等瑞宝章、帝国学士院章、本多記念賞、日本金属学会賞、発明協会会長賞、日本鉄鋼協会渡辺三郎賞および製鉄功労賞など多くの榮譽に浴した。また仙台市より世界文化の向上に尽した功績によつて名誉市民の称号を贈られた。

かくの如く、国の内外における博士の業績はまことに偉大であつたが、一面、博士はその資性、清廉、温厚、高雅にして謙虚であり、その往くところすべて深い尊敬と敬愛の念を集めた。

弔 辞

日本学士院会員、東北大学名誉教授、日本鉄鋼協会名誉会員、村上武次郎君の訃報に接し、洵に痛惜に堪えず、謹んで弔辞を呈します。

博士は、大正3年京都帝国大学理工科大学純正化学科卒業されるや直ちに、東北帝国大学に奉職され、同大学教授工学部長、金属材料研究所長を歴任され、金属特に鉄鋼に関するご研究に精進されるとともに人材の育成に尽力されました。そのご業績が如何に輝かしいものかは昭和31年に特殊鋼の研究で文化勲章を受章され、このほか帝国学士院章、本多記念賞を受けられたことから明らかなであります。

金属研究者の最長老として、多くの人の敬愛を一身に集めておられましたのに、再び博士の温容に接することができなくなりましたことは、誠に哀悼の念に堪えないところであります。

ここに、日本鉄鋼協会を代表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

昭和44年8月2日

社団法人日本鉄鋼協会会長 藤 本 一 郎